

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2021年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究 ～LDK空間におけるテレワークとテレスタディの併存に焦点を当てて～
研究代表者	山崎 美波（積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員）
共同研究者	杉田 菜穂（大阪公立大学大学院 経済学研究科 教授） 河崎 由美子（積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所 所長） 秋山 寿美江（積水ハウス株式会社 住生活研究所 課長） 服部 正子（積水ハウス株式会社 住生活研究所 課長） 木野村 昭彦（積水ハウス株式会社 住生活研究所 課長） 津江 大志（積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員） 国吉 真夕（積水ハウス株式会社 住生活研究所 社員）
研究成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策としての一斉休校や出勤者数削減の要請により、多くの人が突然、オンライン学習や在宅勤務を行わざるを得ない事態に直面した。多くの家庭で住まいの使われ方やそこに暮らす家族関係に変化が生じている中、オンライン学習の普及に対応する「多様な学習ツールの効果的な利用を可能とするスペース」「状況に応じた学習スペースの使い分け」「オンライン学習と在宅勤務の併存といった状況にも対応できるスペース」について明らかにすることを目的に、本年度は基礎調査として、オンライン学習に際して親のサポートを多く必要とするだろう小学校低学年の子どもがいる家庭の“子どものオンライン学習×親の在宅勤務”の実態について確認した。</p> <p>2000名に対するWebアンケート調査、4名に対するインタビュー調査を通じて、小学生の半数以上にオンライン学習の経験があること、小学校低学年の子どもはオンライン学習時に親のサポートを必要とする場面が多く、在宅勤務と重なる際の親の負担が大きいことが明らかになった。また子どもがリビングダイニングでオンライン学習を行う際に親子ともに満足するためには、「視線は通るが音は通りにくい透過性と遮音性を兼ね備えた提案」や「オンライン学習として望ましい環境を必要に応じてタイムリーに創出できる空間的“仕掛け”」が重要あることが確認できた。</p>